

以下は15分足にて、

- 黄緑の水平線
- 黒のキリ番(トリプルゼロ)

これらレジスタンスラインの重複により、とある手法でショートを狙い、縦線でエントリーをされたトレード添削の事例です。



灰色の直近安値で利確を行い、約50pipsが見込めた例だったものの、この後は下図のように、上昇して損切りに至りました。

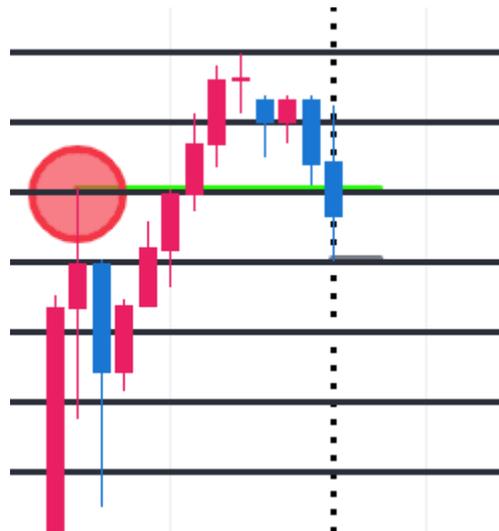


もちろん、勝率100%は不可能なので、確実に損切りになる事例は避けられません。

ただ、この例は、各教材で解説している**エントリー方向と逆向きに作用するラインが要因で損切り**に至っており、本来であれば問題なく回避して損失を防げた事例でした。

そのエントリーと逆方向に働くラインは、実はエントリー根拠に使っていた黄緑のラインです。

まずは1時間足にした下図をご覧ください。



黄緑のラインと縦線、横黒線のキリ番は位置をまったく変えていません。

その上で、黄緑のラインが、レジスタンスライン→サポートラインに変わる、いわゆる**サポレジ転換(ロールリバーサル)**が起きている最中でした。

つまり、15分足で見てレジスタンスラインでショート「味方」に見えていた黄緑のラインは、1時間足ではショートを妨げるサポートラインになっていたわけです。

せめて1時間足の実体が抜けて確定すれば(終値で確定)、サポートラインとしての機能が弱まり、ショートへの妨げにならず利確できていたかもしれません。

この事例のように、**エントリー根拠に使うラインが、別の時間足(今回は1時間足)で見れば、エントリーと逆方向に作用するラインとなっていて、エントリーを回避すべき状況になるケース**があります。

特に上位足は多くのトレーダーに着目されるため、下位足のエントリーを妨げる働きをする場合、大きな逆行を食らうことも少なくありません。

1つのラインがレジスタンスラインとサポートラインの両方で働くという、見落としがちなパターンですが、無駄な損失を抑える上で重要なポイントになるので、ぜひ活かして頂ければ幸いです。